

平成20年3月18日

滋賀県議会議長

出 原 逸 三 殿

びわ湖ホール創造活動を継続し、
地域の文化環境の向上と日本文化の発展に貢献してください

このたび滋賀県議会で、びわ湖ホールの9年にわたる運営実績を評価されつつ、厳しい財政状況のもとで、文化芸術事業、特にオペラの自主制作をめぐる活発な議論が提起されていると伺いました。

びわ湖ホールは、1998年の開館以来、初代芸術監督の若杉弘氏やその後任の沼尻竜典氏のビジョンの下に、芸術性の高い舞台芸術を創造し発信してこられました。びわ湖ホールによる本邦初演のオペラを鑑賞するために、滋賀県周辺のみならず、首都圏域から訪れるオペラファンも少なくありません。四面舞台を備え、専属の専門スタッフを備えた大ホールは、世界的なオペラやバレエ団の来日公演ができる優れた劇場として、関西圏の人々に貴重な公演鑑賞機会の提供を可能にしてきました。びわ湖ホールが、日本のオペラの水準を牽引してきたことは、日本の芸術関係者はもとより、広く世界からも評価されていることです。まさに地域で質の高い芸術を創造する体制をもつことが地域力の重要な要素と認識される時代になっています。また、中ホール、小ホールも、滋賀県内外の人々に優れた演劇やダンス、多彩な音楽に触れる機会を提供してきております。この諸活動を高く評価し期待し、文化庁は我が国が誇る公共劇場のひとつとして芸術拠点形成事業の支援を行っています。

さらに、びわ湖ホールでは、「青少年オペラ劇場」「びわ湖シンフォニーホール」「劇場探検ツアー」や「こどもの日コンサート」など、次世代に多様な芸術体験を提供できる拠点として、青少年向けの活動に積極的に取り組んでこられました。なかでも専属の声楽アンサンブルによる「学校巡回公演」や「ふれあい音楽教室」は、滋賀県内の学校教育、生涯学習に寄与する充実した活動として、人々が心豊かに過ごせるような文化的環境を支えています。文化芸術は人間が人間らしく生きていくために欠かすことの出来ないものであり、文化のない福祉はあり得ません。

びわ湖ホールへの活動は、それを担う専門スタッフたちの日常的な仕事の積み重ねの上に可能となるものであり、ひとたび継続性を断ち切ってしまうと、再生が難しくなってしまう性格のものであります。このことは長い目で見て滋賀県民のみならず、日本全体にとって大きな損失につながることをご理解いただき、オペラの自主制作をはじめとするびわ湖ホールへの創造活動を止めることなく続けていただけるよう切に要望いたします。

このことは俳優、歌手、演奏家、舞踊家、演芸家、演出家、舞台スタッフなど実演芸術にかかわる専門家の一致した思いであります。

野村 萬（社団法人日本芸能実演家団体協議会会長）会員 7 1 団体 90,000 名

五十嵐喜芳（日本オペラ連盟 理事長）会員 6 団体

蔵田裕行（関西二期会 理事長）
竹中史子（東京オペラ・プロデュース 代表代行）
竹沢嘉明（東京室内歌劇場 運営委員長）
栗林義信（東京二期会 理事長）
大賀寛（日本オペラ振興会 理事長代行）
寺崎裕則（日本オペレッタ協会 理事長）

児玉幸治（社団法人日本オーケストラ連盟 理事長）会員 2 7 団体

NHK交響楽団／オーケストラ・アンサンブル金沢／大阪シンフォニカー交響楽団／大阪センチュリー交響楽団／大阪フィルハーモニー交響楽団／神奈川フィルハーモニー管弦楽団／関西フィルハーモニー管弦楽団／九州交響楽団／京都市交響楽団／群馬交響楽団／札幌交響楽団／新日本フィルハーモニー交響楽団／仙台フィルハーモニー管弦楽団／セントラル愛知交響楽団／東京交響楽団／東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団／東京都交響楽団／東京フィルハーモニー交響楽団／名古屋フィルハーモニー交響楽団／日本フィルハーモニー交響楽団／広島交響楽団／山形交響楽団／読売日本交響楽団／京都フィルハーモニー室内合奏団／中部フィルハーモニー交響楽団／東京ニューシティ管弦楽団／東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団

伊藤京子（社団法人日本演奏連盟 理事長）会員 3,453 名

崎元 讓（日本音楽家ユニオン 代表運営委員）会員 5,932 名